

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第1章 典礼の刷新と促進のための一般原則」の「Ⅲ 聖なる典礼の刷新」の続きを解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

Ⅲ 聖なる典礼の刷新

典礼憲章 ⑪ ～第二バチカン公会議公文書より～

C 典礼の教育的、司牧的性格に基づく基準

【典礼】の刷新にあたっての一般基準の続き

- ・ ことばと典礼：【典礼】において「儀式」と「ことば」が密接に結ばれていることを明らかにするために、
 - 1) 聖書の朗読をいっそう豊富で、変化に富み、より適切なものとする。
 - 2) 説教は、儀式の許す限り、適切な位置を典礼注記にも指示すること。
説教の任務を忠実かつ確実に果たすこと。説教は、聖書と典礼の泉からくみ取り、救いの歴史、イエス様の神秘における神様の素晴らしいみわざを告げ知らせることとして行われること。
この神秘は私たちの内に常に現存し、働いています。
 - 3) 【典礼】と直接関係のある教理教育を、あらゆる方法で奨励すること。
必要であれば、儀式の間であっても短い指示が行われるよう計らうべきです。この指示は司祭やその役目を委ねられた奉仕者によって、適切に所定の言葉あるいは類することばで行われます。
 - 4) 大きな祝日の前夜、待降節と四旬節のある週日、また主日と祝日に神のことばの聖なる祭儀が行われるよう奨励すること。特に、司祭が不在のところにおいては大いに勧められるべきであり、その折には助祭や司教から委任を受けた者が祭儀を導きます。

(つづく)